



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツくじについてはこちらから

[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]
<https://www.toto-growing.com/>

スポーツくじ



特別企画★スポーツによる地域活性化の促進に取り組むクラブ

特定非営利活動法人 **ただみコミュニティクラブ** (福島県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM180_tadami.PDF

特別企画★障がい者スポーツに取り組むクラブ

一般社団法人 **琉球スポーツサポート** (沖縄県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM180_ryukyu.PDF

連載★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ

**安曇野総合型地域スポーツクラブ
スポネット常念** (長野県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM180_azumino.PDF

助成金情報 ▶▶▶ [詳細](#)

お知らせ ▶▶▶ [詳細](#)

バックナンバー ▶▶▶ [詳細](#)

全体版 ▶▶▶ [詳細](#)



JSPPO
Japan Sport Association



特別企画

★スポーツによる地域活性化の促進に取り組むクラブ★

特定非営利活動法人ただみコミュニティクラブ 福島県南会津郡只見町

総合型クラブには、地域コミュニティの核として、地域スポーツ環境の充実やスポーツを通じた地域課題解決などの取り組みが期待されています。

そこで今回は、スポーツによる地域活性化の促進に取り組むクラブを紹介します。

1 豪雪地帯を楽しむコミュニティクラブ

豊かな自然環境を生かしたスポーツ拠点づくり

福島県の西南部に位置する只見町は、人口約3500人の日本有数の豪雪地帯であり、人と自然が共生するユネスコエコパークにも認定されています。当クラブは、マイナスイメージの強い豪雪地帯でも、雪を楽しむスポーツを通じて地域を元気にしたいという思いから、平成18(2006)年に地域の有志によって設立準備委員会が立ち上げられ、平成20(2008)年に民間主導の総合型地域スポーツクラブとして設立されました。

町内には町民体育館、野球場、サッカー場、ビーチバレーボールコートなどのスポーツ施設が整備されており、行政は豊かな自然環境を生かした山岳スポーツやロードバイク、カヤック、SUP(サップ)といったアウトドアスポーツにも力を入れています。当クラブは冬季にはビーチバレーコートを押雪し、クロスカントリースキーや雪上イベントを開催し、季節を問わず多くの人々が訪れる、地域に根ざしたスポーツ拠点となっています。



雪上バレーボール

少子高齢化の解決に多方面から取り組む

平成24(2012)年には法人格も取得し、現在は地域活性化を軸に、スポーツ振興や健康づくり、コミュニティ形成、青少年の健全育成などに取り組んでいます。令和6(2024)年度の会員数は132名、理事長1名、理事8名、監事1名、クラブマネージャー2名の運営体制になっています。

只見町は、町内に認定こども園1園、小学校3校、中学校1校、県立高校1校があり、少子化が進むなかでも、幼・小・中・高が連携したサステナビリティ教育(ESD)に取り組んでいます。当クラブも行政、他団体との協働事業や高齢者向け健康教室、学童支援、そしてスポーツ交流を推進し、少子高齢化という地域課題の解決に力を注いでいます。

現在実施している主なスポーツ教室には、サッカー、ウォーキング、トランポリン、中高年向けの体力づくり教室があります。また、町営のビーチバレーボールコートの隣にある、カフェ機能を備えたトレーラーハウスを事務局としており、誰でも気軽に立ち寄れるクラブハウスとして親しまれています。



事務局があるトレーラーハウス

2 地域資源を活用したプログラムづくり

町の課題でもある急速な人口減少に向き合いながら、地域資源を活用し、会員や地域住民の笑顔を想像しながらプログラムを考えることは、クラブマネージャーにとってやりがいのある仕事の一つです。クラブが担う役割として地域のニーズに応えることもその一つであり、潜在化する資源や地域人材に目を向け、未来につながる可能性を見いだすことを大切にしながらクラブ運営をしています。

好評を博すJR只見線を利用した散策活動

中高年向けの教室“からだ塾”の企画の一つに、平成23(2011)年の豪雨災害から全線復旧を果たしたJR只見線を利用した散策活動があります。復興した只見線を利用する企画は毎回好評であり、車窓から見えるいつもと違った景色に只見線コーディネーターの名所案内も加わって、参加者からはちょっとした旅行気分が味わえるという感想が寄せられます。



只見線コーディネーターの名所案内

保健師や歯科衛生士とともに高齢者の健康維持をサポート

また、“おたっしや教室”ではクラブマネジャーおよびクラブの指導者が行政区を訪問し、保健師や歯科衛生士とともに高齢者の健康維持をサポートします。そのなかで、ストレッチや脳トレなど自宅で無理なく継続する楽しさをお伝えします。いずれも、行政と協働する事業は10年以上継続し、マネジャーが地域の顔としての調整役、各部署のつなぎ役を担っています。



おたっしや教室

注目される若者交流事業“星空カフェ”

令和5(2023)年度から若者交流事業として“星空カフェ”を実施し、内容や形式にかかわらず若者のリアルな居場所づくりを目的とし、ニュースポーツ、お花見、アウトドアイベントやピザ窯づくりなどさまざまな体験活動をしています。参加者の声を形にする効果もあり、関わる人が役割(撮影、活動準備、参加周知等)をもって主体的に楽しむ企画は、新たなコミュニティの場として地域から注目されています。

地域活性化推進のポイントは、いつでも開かれた活動場所や気軽に集まれる場をより多くの方に知っていただくことにあります。事務局のトレーラーハウスやその周辺の施設環境がその役割を継続的に担い、交流人口増加と地域活性化をめざして活動しています。

自然との関わりを深める『母と子のネイチャースクール』

近年、身近に起こる自然災害や環境への意識がよりいっそう増したこともあり、ユネスコエコパークの地であるご縁から、自然との関わりを深める活動に出会い、公益財団法人日本自然保護協会が主催する『母と子のネイチャースクール』に参画する機会をいただきました。子どもたちが休耕田に入って、生き物を探すことに夢中になる姿を見つめ、人と自然が共存していくことの大切さを学び、より多角的な知見から、自分たちの住む環境を見直す貴重な機会となっています。クラブの理念や目的を達成するための活動は、出会いやきっかけによって広がり、活動の意義も深まっていくことを実感しています。



母と子のネイチャースクール

3

多世代が交差する“場”をつくる効果

地域に根づいた中高年・高齢者向けの活動

中高年・高齢者向けの健康維持と生活の質の向上を目的とした健康寿命の延伸に寄与する活動は、医療や福祉の専門職との協働もあり、安心感と専門性のあるサポートが行き届いていると感じる一方で、参加意識の持続性に力を入れていくことが必要であると感じています。特に、豪雪地帯における冬期間の体調管理やコミュニティづくりの事業として定着し、行政との協働を継続できていることは、信頼関係と実績の証しであり、クラブの存在が地域にしっかりと根づいていることを示しています。

また、サロンや昼食会の交流活動も併せて実施することで参加者の意欲向上も見られます。しかしながら、地域によって参加者数のばらつきがあるのが課題です。

若者が「関わる側」になる機会をつくる

地域資源を創出する企画では、地域の魅力を再発見し、若者が「関わる側」になれる機会をつくっている点が、多世代が交差する“場”として機能しており、新たなつながりや協働の芽が育つ土壌として地域コミュニティの一端を担っていると好評価を受けています。

デジタルツールでの情報共有から、関わる人の活動の様子が見えることを重視しており、「みんなで楽しさを分かち合う喜びがある」「できたらいいな、が形になる」「気が向いたら参加するくらい」など感想もさまざまです。今後は、ニーズを受け止めながら人の変化に着目した横展開を考えています。

ユネスコエコパークの特性は子どもと親の意識を変える

自然環境との関わりを通じた教育的効果として、ユネスコエコパークの特性を生かしたネイチャースクールへの参画は、子どもたちにとって貴重な環境教育の機会になっています。また、ありのままの子どもを受け止める姿勢や地域を越えた交流が、保護者の意識も変えています。「また参加させたい」「子どものいきいきとした姿がうれしい」「親子で体験できる自然体験企画の参加は初めて」など、保護者は自然体験を通じて、別な角度から子どもの成長を実感しています。例えば、コミュニケーションの取り方や興味のあることへの集中力から、子どもの力を見直す機会となったはずです。日常とは違った一面がかいま見られるイベント企画に関われたことは、クラブとして意義深く、今後も力を入れていきたい分野です。



星空カフェで実施された恐竜イベント

4 めざすは「インクルーシブな雪上スポーツ」

住民のニーズに応え、地域に還元する事業を継続

当クラブが設立して17年が経過し、人口減少が著しい只見町では、クラブの存在価値が問われる時期に入っています。多くの出会いやきっかけを大切にする姿勢を変えずに、活動の横展開が自然と行われていくために、地域と共に歩みを進めていきます。また、クラブの理念をより実感できる社会的価値や信頼性を強みとしたあり方を通じて、会員や地域住民のニーズに応え、地域に還元する事業を継続していきたいと思います。

進化する「TADAMIスノースポーツフェスティバル」

設立当初より、地域資源でもある豪雪のネガティブなイメージを、雪は楽しく、環境を豊かにする宝物に変える思いがありました。そこで誕生した雪上イベントが「TADAMIスノースポーツフェスティバル」です。準備期間も含めると20年という歳月が流れたことに驚きますが、現在も冬季イベントとして毎年3月に開催しています。おかげさまで、スノーバレーボール、雪上フットサルは恒例の種目となりました。

これから取り組みたいことの一つに、雪上におけるインクルーシブなスポーツ環境の仕組みづくりがあります。「インクルーシブな雪上スポーツ」がめざすのは、年齢、性別、障がいの有無、スキルレベル、人種や文化的背景などにかかわらず、誰もが参加・楽しめるように設計された雪上での環境づくりです。その構想を、TADAMIスノースポーツフェスティバルで具現化したいと計画しています。小さな積み重ねとクラブに関わる人々の思いが総合型クラブのあり方や意識を進化させています。

特定非営利活動法人ただみコミュニティクラブ クラブマネジャー 馬場なな子

クラブプロフィール

設立年月日 平成20(2008)年2月29日(平成24年8月3日 法人登記)

所在地 福島県南会津郡只見町小林字下前田412番地

運営 会員数:132名(令和7年3月現在)、予算規模950万円(令和6年度)

特徴 日本有数の豪雪地帯の只見町で、雪のマイナスイメージを地域スポーツの力で町ぐるみで元気にしたい！と有志で立ち上げた民間主導の総合型地域スポーツクラブです。現在は、行政との協働事業も増え、スポーツを核とした交流人口の拡大によって、クラブの知名度も上がっています。出会う皆さまの笑顔が私たちの宝物です。

連絡先 〒968-0601 住所:福島県南会津郡只見町小林字下前田412番地

TEL:0241-86-2671 FAX:0241-86-2587

HP:<https://sites.google.com/view/tadami-cc/>

E-mail:info@tadami.info



特別企画

★障がい者スポーツに取り組むクラブ★

一般社団法人琉球スポーツサポート 沖縄県浦添市

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などのさまざまな地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれています。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについて紹介します。

1

障がい当事者中心の総合型クラブ

小学校低学年から50代まで多世代での活動

当クラブは、沖縄県の浦添市を拠点とし、平成26(2014)年に発足しました。当初はパラアスリートを個人支援する目的でスタートしましたが、現在は全国でもまれな「障がい当事者中心の総合型クラブ」として活動をしています。

卓球クラブからスタートした活動は、周囲からの要望などに応える形で活動種目を増やし、現在は11クラブ(6種目)となっています。会員数は90名前後と多くはありませんが、複数クラブをかけ持ちしている参加者も多く、年間参加者は令和元(2019)年には3500名を超えました。コロナ禍を経て、現在の参加者は2400名ほどに低下していますが、これから回復が見込まれています。

クラブの活動は毎日実施され、小学校低学年から50代まで多世代の参加でにぎわっています。特にバドミントン、陸上競技、卓球の3クラブは健常者のクラブ員も参加し、障がい当事者と一緒にクラブ・ライフを楽しんでいます。

合言葉は「好きなものを、好きなときに、好きな分だけ」

障がい者中心の総合型クラブとして継続的に運営していくために、専門性の高いスタッフの確保に努め、社会福祉士の資格やパラスポーツ指導員の有資格者をスタッフに据えて、クラブ運営を行っています。専門性の高いスタッフを本業として確保していくために、運営資金の確保に特に気を配り、「多事業化」を心がけています。

クラブ運営以外にも、障がい者運動教室の事業やイベント開催事業、市町村からの障がい者スポーツ業務委託などを受け、事業収入として確保しています。そこで得た収益を人件費や管理費として活用し、スタッフが本業として続けていくことのできる環境の整備にも力を入れています。「好きなものを、好きなときに、好きな分だけ」を合言葉に、今日もクラブ活動を楽しんでいます。

実施教室

①卓球クラブ ②陸上クラブ ③ジョギングサークル ④バドミントンサークル



①全国上位をめざす選手も数多く在籍する卓球クラブ



④バドミントンサークルは楽しく和気あいあいと活動しています



②一般の大会へ出場して好記録を出した陸上クラブ

2

障がい当事者と向き合う取り組み内容

特別支援学校卒業後のスポーツ活動の充実をめざす

本クラブは、「沖縄の障がい者スポーツを盛り上げる」という理念を掲げております。

代表の手登根^{てどころ}が特別支援学校の教諭をしていたこともあり、障がい者が特別支援学校を卒業した後、スポーツ活動の充実をサポートできるようにとスタートしました。

卓球クラブをスタートさせてまもなく、「他の競技もクラブ化してもらえないか？」という要望をいただき、多世代・多種目の総合型地域スポーツクラブへと変化しました。

日々のクラブ活動のなかでは参加者とのコミュニケーションを大切に、クラブ活動の楽しさを実感してもらうことにつなげ、障がい当事者の悩み相談、日々の生活状況の聞き取りなどにも力を入れて、参加者のQOL(生活の質)の向上につなげています。

eスポーツでリアルスポーツの入口づくり

コロナ禍を経て、オンライン、運動が苦手な方をキーワードに「eスポーツクラブ」も創設し、近年のeスポーツ発展に伴って、活動を充実させています。また、eスポーツからリアルスポーツへの入口としての意味を持たせ、障がい当事者の居場所づくりとしても活用しています。さらに、大学と連携してeスポーツの研究活動も行っており、eスポーツの効果について、研究論文の共同発表をめざしています。

クラブでの活動では、障がい当事者の特性に応じたメニューづくりを心がけており、「できた」を実感してもらえるようにしています。専門的には「感覚統合理論」を取り入れて、感覚の育成に力を入れて、体の使い方がうまくなるように支援しています。



eスポーツクラブは運動が苦手でも集える場所に！

参加費の徴収、サポート人材の育成などで持続可能なクラブ運営を

クラブの運営に関して、持続可能な活動とするために、参加者である障がい当事者からの参加費の徴収も行っています。世間的には「障がい者＝無料」の風潮もあるなか、当初は理解が進まない時期もありましたが、現在ではさまざまな効果・付加価値も認められて、理解されるようになっています。その他、スポンサー収入などもあり、さまざまな事業も組み合わせての運営になっています。

経費に関しては、人件費が多く比重を占めています。人材育成を進め、持続的にクラブを運営していくために、その費用に関しては、世間一般の仕事における昇給の仕組みや、しっかりと生活が担保される給与体系を実現できるように努力しています。

クラブは、パラスポーツ指導員の資格を取得するカリキュラムがある「沖縄大学」との連携で、ボランティア指導員（補助員）の派遣などを行っています。

また、沖縄県障がい者スポーツ協会（OASA）と連携して大会イベントの共催も行っています。イベントの終了後には、OASA経由で参加した障がい者の方が当クラブに入会されることも多く、イベントを通じて当クラブを周知する効果を生んでいます。

3

障がい者支援の効果と今後の課題

クラブ内のコミュニケーションを生かした効果的な支援

クラブでのコミュニケーションを通して、障がい当事者のさまざまな状況を知ることが大切です。それぞれの状況に応じて、就労支援や家庭、医療機関との連携などを行い、効果的な支援を行うことにつながっています。これらの取り組みは、就労している障がい当事者の3年定着率85%以上という高い数字に表れています。

また、クラブで実践しているメニューに対しては、「運動は苦手だったが、体の使い方がうまくなり、自己肯定感の向上につながっている」という感想を、低年齢の子どもから大人まで多くの参加者よりいただいています。

このような「余暇支援」の仕組みづくりは、今後の福祉現場でも非常に重要視されており、一つのモデルケースとして発信していきたいと考えています。

人件費に対して思うように収益が上がらない課題

一方で、こういった「手間がかかる」支援でのクラブ運営を行っている影響で、働いているスタッフや、役員の労働生産性がなかなか上がらない現状もあります。かけた人件費に対して、思うように収益が上がらない構造があり、それを改善することも大きな課題です。今後は、スポンサー収入や寄付などの、一般的にいう「不労所得」を増やせるように、さらにクラブの評価を高め、運営に生かせるようにしていきたいと考えています。

長年支援しているクラブ参加者が、年齢を重ねるごとに成長し、社会性を身につけ、自立へ向かっていることを確認できることが、事務局としては大きな喜びです。今後も歴史を積み重ねるなかで、こういった喜びを多く感じられるようなクラブ運営をしていきたいと考えています。



小学生から大人まで幅広く活動しているベースボールクラブ

4

「沖縄モデル」の発信をめざす

目標は3年後に年間のべ6000名の参加者達成を

現在は知的・発達・精神障がい当事者が多いクラブですが、「ボッチャ」など車いすユーザーが中心になって行うスポーツも取り入れたいと考えています。今後、地域の皆さんに障がい者スポーツをより理解してもらい、障がい者も健常者と一緒にスポーツを楽しめる、本当の意味での障がい者中心の総合型地域スポーツクラブをめざしていきます。

また、数値目標としては、3年後に年間のべ6000名の参加者を達成したいと考えています。そのためには、クラブの周知、障がい当事者がスポーツをしていくことで得られる効果、喜びについてもっと多くの方に認知してもらえるように発信していきます。

さらに、イベントも今まで以上に多く開催し、県内大会だけでなく九州ブロックや、全国規模の障がい者スポーツの大会を沖縄で開催。全国から沖縄へ障がい当事者が足を運ぶことができる世界をつくりたいです。

今後も沖縄で構築している、障がい当事者中心の総合型地域スポーツクラブを全国に発信していく、「沖縄モデル」として全国でも同じようなクラブが一つでも増えるように、発展させていきます。



沖縄の青空の下、楽しくジョギング・ウォーキング

一般社団法人琉球スポーツサポート 代表理事 手登根雄次

クラブプロフィール

- 設立年** 平成26(2014)年8月30日(平成25年1月24日 法人登記)
- 所在地** 沖縄県浦添市安波茶2-20-5-105 西原アパート
- 運営** 会員数:90名(令和7年4月現在)、予算規模300万円(令和6年度)
- 特徴**
- 障がい当事者中心の総合型スポーツクラブです。
 - 運動が苦手な方でも取り組めるメニューづくりを行っています。
 - 月謝制ではなく、参加した分の回数で参加費を徴収しています。
(障がい当事者さんの体調や生活などを考慮して)
 - スポーツ活動だけでなく、生活全般の相談ができるクラブです。
- 連絡先** 〒901-2114 沖縄県浦添市安波茶2-20-5-105
TEL:090-3794-8384 FAX:098-901-7884
HP:<https://ryukyuss.net/>
E-mail:info@ryukyuss.net



★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご利用ください！
動画はこちら➡<https://youtu.be/tMz-PGZ8chY>



過去の動画はこちら



連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

安曇野総合型地域スポーツクラブ スポネット常念 長野県安曇野市

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブを紹介します。

1

クラブ概要

地域部活動の受け皿として部員数は発足時の1.5倍に 多世代、地域のつながりの再構築をめざして活動中

私たちのクラブは、自然を愛し、水と緑の薫る安曇野市、常念岳を中心としたアルプス山岳を背景に緑豊かな田園風景を醸し出している地域で、多世代でスポーツを楽しむ教室やイベントを企画し、地域のつながりの再構築をめざしています。

安曇野市の人口は約9万7000人で、その約1割弱の8800人が活動拠点である堀金地域の人口となります。令和6(2024)年9月現在の部員数は、332名で、クラブ発足時より1.5倍に増加しています。これは、中学校の地域部活動の受け皿となっているジュニア友遊教室があることも理由の一つで、今後も増加していくことを期待しています。

クラブで運営する教室は、子どもから大人まで参加できる教室を中心に14教室と4つのイベントを行っています。特に教室では、愛・ビクスのエアロビクス、子ども運動教室、ワンバウンドふらば～るバレーなどが盛んです。イベントでは、地域の象徴である常念岳をバックに走る新春さわやか元旦マラソンが好評です。

安曇野市から委託されている事業では、親子で楽しむファミリースポーツレストランが多くの参加者でにぎわっています。

事務局は現在、市の堀金総合体育館事務局の一部を借用しての非常勤ですが、地域部活動の全市への広がりを見ると、事務処理の業務も増えるので常勤体制を考えていく必要があります。

《令和5(2023)年度予算》

クラブの教室運営費	2,204千円(14教室、4イベント)
安曇野市委託事業費	1,043千円(ファミリースポーツカフェ8事業)
地域部活実施委託費	2,048千円(4クラブ地域移行)
合計	5,295千円(内 人件費を含む事務局経費 533千円)



ファミリースポーツレストラン



常念岳をバックに新春さわやか元旦マラソン



子どもかけっこ教室

2

取り組みの内容

部活動改革に向けた教育委員会からの働きかけにより連携がスタート

そもその始まりは令和2(2020)年9月。学校の働き方改革を踏まえた部活動改革についての事務連絡を受け、令和3年(2021)5月に安曇野市教育委員会の働きかけで、堀金中学校校長・教頭、スポネット常念との打ち合わせにより、堀金中学校運動種目の地域指導者発掘と、候補者への打診をする担当を決めたことが連携のきっかけです。

その年の9月には、堀金地区「地域部活動」の意見交換会を地域指導者候補も加えて開き、10月に行った第1回堀金地区「地域部活動」指導者協議会では、当面の課題である、生徒・保護者への説明方法については中学校側に取り組んでいただくこと、それに加えて、休日指導する指導者としての心構えや11月に1回の試行を実施する際の関係者への合意を得ること、学校部活動との違いを確認していただくこと、1回目の試行後の反省項目を提出することについても話し合いを行いました。

スタートからこれまでの経緯を時系列にまとめます。

《令和4(2022)年度》

4月に教育委員会、学校長・教頭、学校運動部顧問、地域指導者、スポネット常念を加えて、第1回堀金地区「地域部活動運営委員会」を開き、5月から休日試行の取り組みを始め、使用する施設は、使用料の減免を受けて無料で活動ができるように話し合いました。

その会議のなかで、運営の主体はどこに置くのか、費用負担はどうしていくのか、指導者への謝礼はどうするのかなどの問題が話し合われました。組織は運営協議会をつくる方向となり、謝金は安曇野市で検討していただく、費用は減免により軽減されるのでは……など細かい内容についての話し合いが進みました。

8月と12月には試行期間の課題や以降の方向性、運営委員会に各クラブの保護者会会長参加についても検討しました。

《令和5(2023)年度》

「地域部活動」を「地域スポーツクラブ」と名称変更し、試行期間から本格的実施として休日取り組みをスタートしました。また、堀金地域「地域スポーツクラブ」の平日移行に向けた試行期間を各クラブで可能な限り取り組むことに決定しました。

《令和6(2024)年度》

堀金地域「スポーツ・文化芸術クラブ」運営協議会を開き、文化芸術クラブの地域移行についての問題点や課題について話し合いを行いました。しかし、文化芸術に関する指導者が地域には見当たらず、学校単位でつくるのは困難であり、現在の教員が兼職兼業申請をしながら状況を見守ることとなりました。

現在も、堀金地区「地域クラブ」運営協議会は、年3回の会議を開き、活動内容の報告や課題について話し合っています。安曇野市には、指導者の謝金や保険料、各クラブの備品消耗品の補助等、地域クラブの活動を支援していただいています。



新聞で報道された地域部活動の取り組み(市民タイムスWEB2023年5月11日掲載記事より)

3 役割分担を徹底することで、部活動顧問の負担を軽減 練習メモで部員たちが主体的に練習を行う

部活動顧問の負担軽減のため、顧問は平日部活動、休日の大会や練習試合の引率をし、地域部活動コーチは、休日の練習を基本として取り組んでいます。このような分担制にすることにより、顧問の負担は月に4日程度軽減しています。

練習については、休日に行われた内容を部員たちがメモして、部員たちが平日の活動に生かし、主体的に練習への参加ができています。また、休日の地域部活動は、事前に部活動顧問と地域指導者が、部員のメモを確認しながら、部員主体で取り組まれています。

地域指導者は、安曇野市からの謝礼や保護者会からの交通費を支給されています。また、こうした社会体育活動はコーチの善意によるボランティア活動が主流でしたが、「地域スポーツクラブ」として広げていくには、このような行政の支援が不可欠だと思います。

また、陸上競技と硬式野球は専門の指導者が地域にはいないという理由で部員数が減少していましたが、スポネット常念に加入したことで他中学との合同練習により効果が表れてきています。

活動内容を理解してもらうための啓発活動も必須

問題として、保護者は部活動なら「教育活動」になるので、活動への理解や協力をしてもらえますが、「地域スポーツクラブ」は「習い事」と理解する保護者もあり、この活動の理解度を深めていく必要があると思います。

そのため、スポネット常念では、今年中にクラブの広報誌に地域部活動の特集を企画し、また、安曇野市が発行している『広報あづみの』にも活動の様子を記事にしてもらうように依頼しています。

地域クラブを設立させるために大きな力を発揮するのは「自分の子どものため」という熱意を持っている保護者がいちばんだと思います。その保護者を動かすのは、保護者への啓発、「令和9年(2027)年度から休日の部活動がなくなる」という周知の方法が大切だと思っています。

4 主体組織のモデルケースとして、事務局の体制を強化し、新しい道をつくりだしていく

堀金中学校の運動部の部活動地域移行の取り組みは、7部活の内4部活をスポネット常念が実施主体として、他の部活はスポーツ少年団と安曇野市陸上競技協会が実施主体として取り組んでいます。

安曇野市の堀金地域以外の4地域は、取りまとめる運営団体がなく、個々での取り組みとなっていますので、スポネット常念が主体組織としてその中心となれるよう、事務局の体制も強化していきたいと思います。

「地域スポーツクラブ」は、練習内容、クラブ員、顧問、保護者との関係、公的な支援等の取り巻くさまざまな要素をすべて整えるのは難しいと考えます。それは、「地域スポーツクラブ」のゴールが見えず、現時点ではいろいろな着地点があってもよいのではと考えます。すべてのことが正解ですので、学校運動部活動の地域移行について前を見て進めていきたいと思います。



会話も楽しいウォーキング



常念岳と槍ヶ岳

安曇野総合型地域スポーツクラブ スポネット常念 会長 臼井良臣

クラブプロフィール

設立年月日 平成20(2008)年3月24日

所在地 長野県安曇野市堀金烏川2662 堀金総合体育館内

運営 会員数:332名(令和6年9月現在)、予算規模:5,529千円(令和6年度)

特徴 [令和6(2024)年度運営目標]

- 主に子どもから大人まで参加できる教室を14教室と4つのイベント
- 安曇野市の受託事業安曇野ファミリースポーツカフェの8事業
- 安曇野市の地域部活動実施運営業務の堀金中学校4クラブ

連絡先 〒399-8211 長野県安曇野市堀金烏川2662 堀金総合体育館内

TEL:0263-72-6340

HP:<http://suponet-jonen.r-cms.jp/>

E-mail:suponet-jonen@outlook.jp

助成金情報

エネルギー文化・スポーツ財団2025年度助成後期募集情報

[実施団体] (公財) エネルギー文化・スポーツ財団

令和7(2025)年10月1日～令和8(2026)年3月31日実施の活動を対象とした募集を行います。中国地域に所在する文化、スポーツに関する団体^(※1)が主催し、中国地域在住者が過半数^(※2)を占める活動で、中国地域内において行う活動を対象とします。

※1: 団体には、社団・財団・県体育協会等の公益法人、地方公共団体を含みます。

※2: 全国規模・西日本規模の大会は中国地域の参加者が過半数でなくても対象とします。

[申込期間]

令和7(2025)年5月1日(木)～6月20日(金)(当日消印有効)

申し込み書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、各申し込み先へ郵送してください。

詳細は以下のページをご覧ください。

<https://www.energia-zaidan.or.jp/support/application/>

ヨネックススポーツ振興財団2025年度助成金

[実施団体] 公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)

すべてのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。また、中学校部活動の地域移行に関し、中学校等と連携を図り推進している団体を対象とします。

[申込期間]

後期対象期間: 令和7(2025)年10月1日(木)～令和8(2026)年3月31日(火)の事業

申請開始: 令和7(2025)年4月1日(火) 10:00

一次締め切り: 令和7(2025)年5月10日(土) 15:00

最終締め切り: 令和7(2025)年6月10日(火) 15:00

審査結果通知: 令和7(2025)年9月上旬(予定)

2023年度よりWeb申請に変更となりました。

締切日直前は申請システムへのアクセス集中が予想されますので、余裕をもって申請を行ってください。

https://www.yonexsports-f.or.jp/grant_application/

令和7年度子どもゆめ基金助成金<二次募集>

[実施団体] (独) 国立青少年教育振興機構

子どもの健全な育成を図ることを目的に、令和7(2025)年10月1日以降に開始し、令和8(2026)年3月31日までの間に行われる子どもの各種体験活動や読書活動に対する助成を行います。

[申込期間]

電子申請システムを利用した申請のみ受付

令和7(2025)年5月1日(木)～6月17日(火) 17:00まで

詳細は以下のページをご覧ください。

<https://yumekikin.niye.go.jp/>

お知らせ

総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度

令和7年度登録クラブとして1,121クラブを認定

「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」に基づき、令和7(2025)年度登録クラブとして1,121の総合型地域スポーツクラブを認定しました。

本制度は、総合型クラブが地方自治体等とパートナーシップを構築し、公益的な事業体としての役割を果たしていくために、活動実態や運営実態、ガバナンス等についての要件を基準としています。

当協会では、本制度の取り組みをはじめ、総合型クラブの質的向上に向けた支援を引き続き進めてまいります。

▼登録クラブ一覧

<https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1095.html>

▼登録・認証制度の概要

<https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1337.html>

令和7年度公認クラブマネジャー養成講習会の開催について

JSPOでは、総合型クラブなどにおいてクラブの経営資源を適切に確保し、健全なマネジメントを行える人材の養成を目的に、「公認クラブマネジャー養成講習会」を開催しております。本講習会は、コミュニケーションスキル、マーケティング、経営戦略、運営、財務、評価といったマネジメントに不可欠な内容を、より具体的に学ぶカリキュラムとなっております。

部活動の地域連携・地域クラブ活動移行の各種取り組みにおいても、総合型クラブがその受け皿として注目されており、クラブの経営資源を適切に確保し、健全なマネジメントを行える人材の確保が求められております。この機会にぜひ受講をご検討ください。

■定員

40名程度

■申し込み方法

①下記ページから、必要書類をダウンロード ※受講条件等詳細をご確認くださいようお願いいたします。

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid221.html>

②指導者マイページにご登録のうえ、

「資格を取得する」-「講習会申込・検索」からお申し込みください。

https://account.japan-sports.or.jp/sign_in

■期間

令和7(2025)年5月9日(金)～6月9日(月)

※申し込み方法 状況によって変更する場合がございます。

日本スポーツマスターズ2025愛媛大会のスポーツボランティア募集

愛媛県で開催される「日本スポーツマスターズ2025愛媛大会」では、競技運営補助やおもてなしなど行っていただくスポーツボランティアの募集を行っています。お申し込み方法については、「日本スポーツマスターズ2025愛媛大会ホームページ」をご覧ください。

ボランティアとして大会と一緒に盛り上げていただける方のご応募をお待ちしております。

▼お申し込みはこちらから＜日本スポーツマスターズ2025愛媛大会ホームページ＞

<https://www.ehime-sportsmasters2025.jp/news20250401/>

募集締め切り：令和7(2025)年5月30日(金)

■日程・会場等

令和7(2025)年9月20日(土)～23日(火・祝) 愛媛県内各地 ※会期前競技

水泳競技：令和7(2025)年9月6日(土)～7日(日)※

自転車競技：令和7(2025)年9月7日(日)※

ゴルフ競技：令和7(2025)年9月8日(月)～12日(金)※

■開催競技

水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、ソフトテニス、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、空手道、ボウリング、ゴルフ(13競技)

■公募ボランティア募集人数

約300人 ※1日当たり30人程度